幼稚園
園長メッセージ

子どもも、親も、保育者も
互いに愛され、育ちあうことを願って。

～主体的な遊びを通し異年齢で関わりあう幼児教育を推進～

キリスト教をバックボーンにした幼児教育を実践。

当園では、スクールモットー「愛され、育ちあう。」を実現するさまざまな取り組みをしています。3歳、4歳、5歳児が混合でクラス編成をする「縦割り保育」もそのひとつで、当園の保育の大きな特徴となっています。少子化が進んで兄弟の数が減る中で、異年齢の子どもが共に生活をすることは「自分と異なる相手を認める」という多様性、社会性、協同性の育ちにつながります。

園の一日はスタッフ全員の礼拝から始まります。一日の保育が神さまに守られ、支えられていることを感謝し、子どもたちの成長を祈ります。子どもたちにとっても、幼稚園は初めてキリスト教にふれる場。毎日クラスごとに集まる時や食前には賛美歌を歌い、祈り、礼拝をします。週に一度の合同礼拝では牧師先生のお話を聞きます。「きのう喧嘩したけど今日仲直りできてありがとう」とか「テレビでご飯を食べられない人がいっぱいいると聞いたので、そういう人たちがご飯を食べられますように」など、子どもたちはとても深い祈りをしてくれます。卒園生たちとの交流は今も続いていますが、「いつでも神様はそばにいるんだよ、と言ってくれた先生の言葉を折にふれて思い出す」と言ってくれます。

豊かな環境の中で、多様な人々と関わりあい、育ちあう、開かれた幼稚園へ。

当園では子どもたちが登園すると1時間半、たっぷり遊びます。園庭で昆虫を探したり、どろんこ遊びをしたり、廃材でおもちゃを作ったり。異年齢の子どもが関わりあい、自分たちが「したい」と思う遊びを楽しみます。その中で子どもたちは自ら遊びを創造する力、人と関わる力、粘り強く取り組む力を養っていきます。「この子の遊びをもっと発展させたら、もっと楽しいだろう」と思う時が保育者の出番で、手助けをします。今回のコロナ禍で、園も長期間休園せざるを得ませんでした。でも、保護者の方々は「廃材を使って遊園地を作ったり、おもちゃを作ったり、次々に遊びを見つけるので感心した」と言ってくださいます。

2018年から始めた「英語であそぼう」も、異文化にふれ、異文化を知る大事な時間。大学の留学生も遊びにきてくれ、一緒に英語で歌ったりする中で、自国・他国の言語や文化の違いを学びます。

園長を務めて12年。幼稚園全体が大きなうねりの中にいた年月でした。まず、2012年に子ども・子育て支援法が施行され、希望者を対象とした「預かり保育」が始まりました。2019年10月からは3歳児以上の保育料無償化が始まり、3歳児の入園が増えました。働く母親がますます増えていく中、お子さんをただ長時間預かるだけでなく、当園の魅力（自然、園庭、父母会等）を活かして親、子、保育者、地域をつなげ、より開かれた園へ。新たな使命を担って努力を続けていきたいと思います。

■第3期中期計画（2020～2024年度）

幼稚園アクションプラン概要

1 教育研究の推進と学習支援

- **キリスト教主義に基づく全人教育の推進**
  - 1 キリスト教主義に基づく全人教育
  - 2 自ら課題を発見し、解決できる教育
  - 3 国際理解の教育
- **園児支援の推進**
  - 1 教学面での支援
  - 2 生活面での支援
- **園児の受入の推進**
  - 1 園児の確保
- **教学マネジメント体制の推進**
  - 1 教育体制
  - 2 教育力向上

2 地域社会との共生

- **産学官連携、地域連携**

金城学院幼稚園　園長
馬渕 宣子

金城学院大学短期大学部保育科を卒業後、金城学院幼稚園教諭として赴任。2009年第5代園長に就任。日本キリスト教団瀬戸永泉教会会員。